

済生会に  
於ける肺結核患者調査  
(昭和三年度)

14.6/1

226

14. 6/1-226



1200501225198



始





14,68  
226

財 恩 賜  
團 賜  
濟 生 會  
に 於 け る  
肺 結 核 患 者 調 査  
( 昭 和 二 年 度  
全 三 年 度 )



14.6.11-226

財團 濟生會に於ける肺結核患者調査

凡 例

發行所寄贈本

本編は主として昭和二年度及全三年度に於て東京市内本會診療機關  
 (本會直營)の診療したる肺結核患者に關する統計を登載し併せて本  
 會よりの委囑に係る道府縣取扱肺結核患者統計及結核患者特別配當  
 額に關する表を掲げたるものなり 附録として全國結核療養所に關  
 する統計及道府縣別結核死亡率累年表を掲げ參考に供す 尙ほ肺結  
 核患者中には喉頭結核患者を含む





# 目次

健康者及胸部レントゲン像(本會病院入院患者)  
肺結核患者ノ

## 略 説

- 本會取扱全國肺結核患者及全死亡者 二頁
- 本會取扱東京市內肺結核患者及全死亡者 八頁

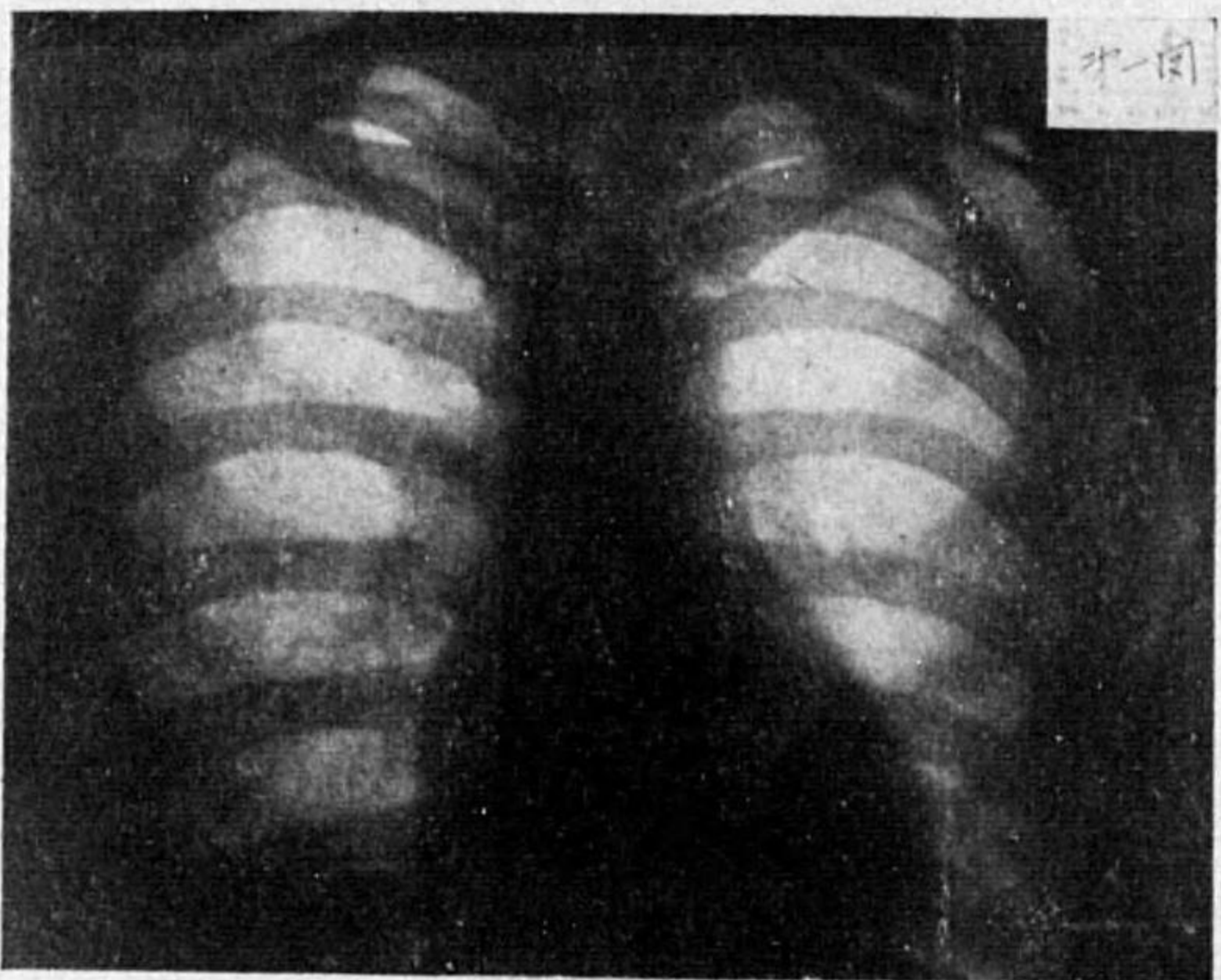
## 統計表

- 本會取扱全國肺結核患者數(創立以來) 三〇
- 死亡者數( ) 三
- 昭和二年度本會取扱東京市內肺結核患者及死亡者 三
- 一、外來及收容患者機關別 四
- 二、外來患者年齡及職業別 五
- 三、外來死亡者年齡及職業別 三
- 四、收容患者年齡及職業別 三
- 五、收容死亡者年齡及職業別 三

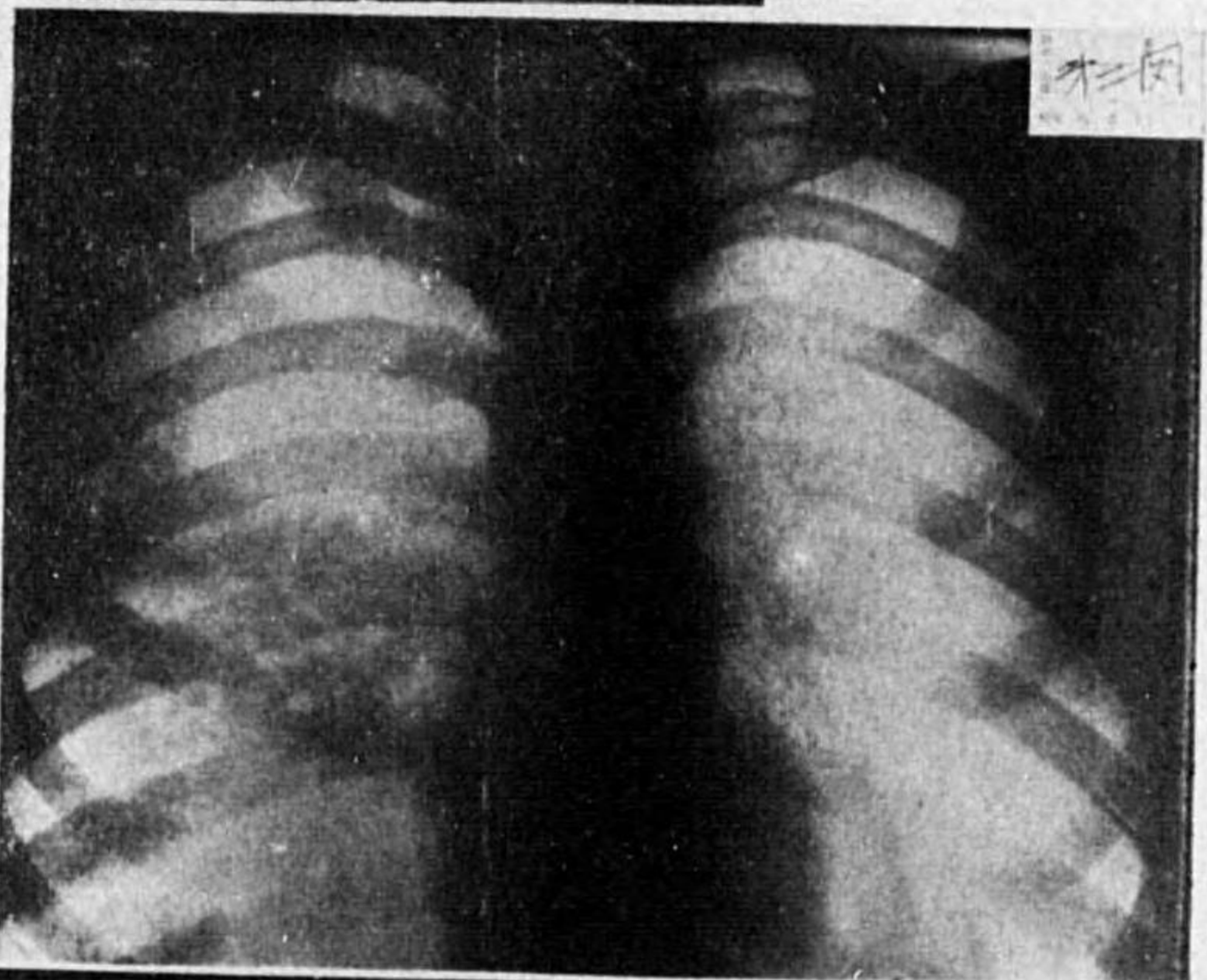
## 附 録

- 昭和三年度本會取扱東京市內肺結核患者及死亡者 三六
- 一、外來及收容患者機關別 四〇
- 二、外來患者年齡及職業別 四〇
- 三、外來死亡者年齡及職業別 四三
- 四、收容患者年齡及職業別 四四
- 五、收容死亡者年齡及職業別 四四
- 本會收容結核患者特別配當額 四六
- 本會東京市內結核病床收容患者 四六
- 結核患者收容機關 四六
- 公立結核療養所 四六
- 結核死亡率率累年比較 四六
- 一、肺結核 四六
- 二、其の他の結核 四六
- 三、全結核 四六
- 都市結核死亡率率累年比較 四六
- 各國に於ける結核死亡者 四六

健康者及肺結核患者ノ胸部レントゲン像



第一圖  
十六歳女子ノ健康ナル胸部レントゲン像



第二圖  
二十五歳ノ婦人  
中等度ノ肺結核レントゲン像  
右肺門部ヲ基底ニシテ右中葉及右下葉ニ渡リ暗翳ヲ認ム、心臟ハ滴狀心ニ近シ



第三圖  
二十九歳ノ婦人  
高度ノ肺結核レントゲン像  
兩肺殆ンド廣汎性ノ点狀乃至斑狀ノ陰翳ヲ以テ蔽ハル、殊ニ右鎖骨下高ニ浸潤著明ナリ  
肺尖ハ比較的透明ナリ

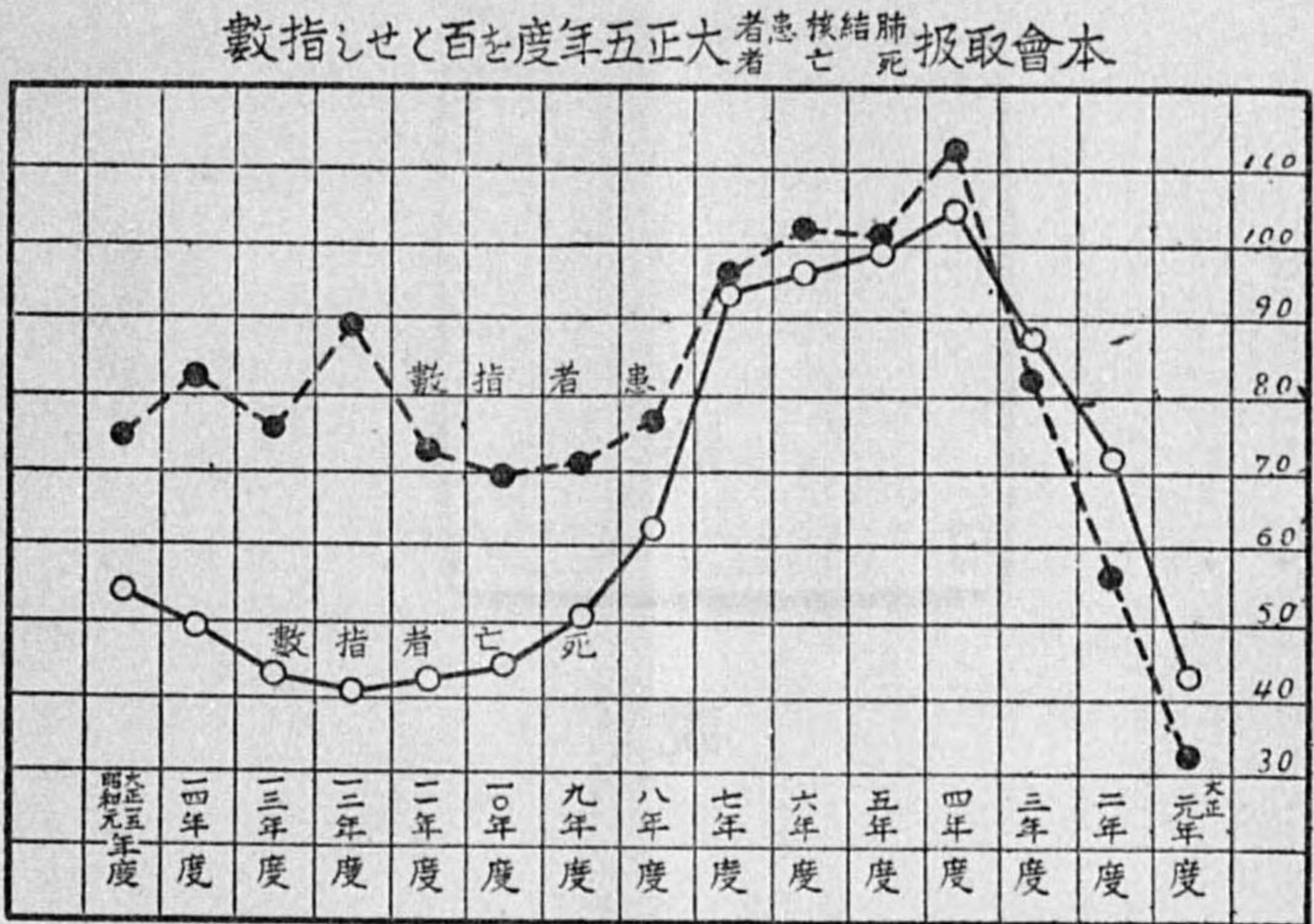




說



## 本會取扱全國肺結核患者及全死亡者



本會肺結核患者 本會は大正元年八月診療開始以來一般患者と共に結核患者の取扱をなし昭和二年六月末迄に肺結核患者(喉頭結核を含む)實人員十一萬五千九百餘人に達せり尙ほ之れが延人員を推定すれば少なくとも六百九十萬餘人に達す(全國肺結核患者の延人員に對する調なきを以て東京市内を見るに一人平均六〇日—七〇日の治療日數を要するを以て一人平均二ヶ月の治療を受くるものとして上記の延人員を推計せり)右の期間に於て最も多かりしは大正四年度にして一萬一千餘人を算し其の後漸次其の數を減少せり然るに十一年度より増加の傾向を示し十四年度よりは肺結核患者に比較的多き越患者を除き新患者のみを掲げしも尙ほ増加せり(大正十二年度は震災に依る臨時年度にして直營診療區域東京府下、神奈川、千葉兩縣下に及

ばし其の計數には肺結核患者の外に其の他の結核患者を含むを以て累年比較より除外す)要するに本會取扱肺結核患者數は診療開始當初は機關整はざるを以て少く其の後制度の整ふに従つて増加し大正四年度を最高とし一時減少したるも震災の前年度より増加の傾向を示せるものゝ如し本會患者の對照とするところは細民なり次の死亡者の増加と共に憂慮すべき現象なり各年度實數及指數を示せば次の如し

### 患者實數及全指數 (本會取扱全國)

年度	實數	指數	備考
大正元年	三,三〇〇	三三	
二年	五,四七	五七	
三年	八,〇〇一	八二	
四年	二一,〇四八	二三三	
五年	九,七三六	一〇〇	
六年	一〇,〇七〇	一〇三	
七年	九,四一八	九七	
八年	七,四〇五	七六	
九年	六,八〇四	七〇	
十年	六,七二七	六九	一、自大正二年患者實數には至十三年度の患者を含む
十一年	六,九三五	七二	前年度よりの越患者を含む
十二年	八,六四八	八九	一、指數は大正五年年度の實數を基數とす
十三年(新患)	七,三三七	七五	一、大正十二年實數には其他の結核患者を含む
十四年(新患)	七,九三六	八一	
十五年(新患)	七,二六八	七四	一、大正十四年度より新患者數を掲ぐ
計	二五,九七四		



**本會肺結核死亡者** 昭和二年六月末迄の取扱死亡者数は二萬一千四百餘人にして前記の肺結核患者十萬五千九百餘人に對して死亡率を見るに十八%強なり(但し大正二年度より全十三年度の患者中には前年度よりの越患者を含み十二年度に例外ある等により實際の死亡率は之より高率となることと思はれる)前記十八%の死亡率を各年度別に見るに元年度の三〇%最高にして徐々に減じ一〇%迄低下し十三年度より増加して昭和元年度十六%を示す肺結核患者は治療日數非常に長く最も長きは入院三ヶ年間に及ぶものあり従つて翌年度への越患者多し思ふに本會當初死亡率高きは細民に對する救療の道初めて開かれ長き間治療の道なき患者即ち重症者多く受療せしに依り其後は患者が自由に診療を受けられ患者數増加すとも直に其に比して轉歸者増加せず或は數年の後に死亡者に計上せらるる等死亡率の變動の著しき一原因と爲りしならん右の如き理由により肺結核患者の死亡率は數年間を通覽するを適當とす本會十五年度の死亡率は前記の如く患者の一割八分強なり之は甚だ低く思はるゝも本會の患者は外來患者大部分を占むるに依り後に記する收容患者に就て見るときは著しく高く東京市内十五年度に於て見るに死亡は患者の六割強を示す 尙ほ入院のみを取扱ふ野方の東京市結核療養所は七年間自大正九年一五年に患者の六割一分強を示す

**死亡者實數及全指數、患者に對する死亡率(本會取扱全國)**

實數	指數	死亡率	實數	指數	死亡率		
大正元年度	九六五	四	三〇%	大正九年度	一、〇八四	五〇	一六%
二年度	一、六〇九	七三	二元	一〇年度	九六七	四四	一四
三年度	一、八九七	八七	二四	一一年度	九〇五	四二	一三
四年度	二、三九三	一五	三三	一二年度	八六五	四〇	一〇
五年度	二、一九二	一〇〇	三三	一三年度	八八四	四二	一三
六年度	二、二四五	九六	三三	一四年度	一、〇九〇	四九	一四(新患に對し)
七年度	二、〇六九	五五	三三	大正一五年度	一一三三	五二	一六( )
八年度	一、三三〇	六二	一八	昭和元年度	二、四〇八	一八	
				計			

死亡に於ても患者數の最も多かりし大正四年度を最高として徐々に減少しつゝ十三年度に至れり然れども十四年度より増加し十五年度も尙ほ増加し指數五一に達せり近年患者數増加せしが死亡數も亦増加せり

**本會取扱道府縣及東京市、日本全國の死亡數比較** 内閣統計局發表の日本全國肺結核死亡數を見るに昭和三年八萬五千八百餘人なり之に就き大正元年よりの趨勢を示すに左表の如く大正五年百に對し七年最も高く一一五を示し其の後徐々に低下し十三年最低にして九二を示し近年又増加し九九に達せり「右は實數より見たるものにして之を人口數に比較する時は次表の如し」



肺結核患者及死亡者實數並に指數

年度	本會道府縣取扱(東京市を除く)		本會東京市内取扱		日本全國	
	肺結核患者	五年度を以てせし指數	肺結核死亡者	五年度を以てせし指數	肺結核患者	五年度を以てせし指數
大正元年度	一、七五九	三三	一、四四一	三五	八三、〇四八	九三
全二年度	三、一三三	五	二、四一五	五	八〇、二三三	九三
全三年度	四、八七六	八七	三、一三三	五	八一、四一四	九三
全四年度	六、五二一	一七	四、五二七	七	八三、二五四	九三
全五年度	五、五八一	一〇〇	四、一五七	一〇	八六、六三三	一〇〇
全六年度	五、八六七	一〇五	四、二〇三	一〇	八七、九五三	一〇〇
全七年度	五、七二七	一〇二	三、六九一	九	九九、二二五	一〇二
全八年度	四、四九三	八〇	二、九一三	七	九三、二二七	一〇一
全九年度	四、四三八	七九	二、三七六	七	八七、一〇三	一〇一
全一〇年度	四、五四六	八二	二、一八一	五	八三、九〇三	九六
全一一年度	四、九二三	八	二、〇三三	四	八五、五二五	九六

人口壹萬に對する肺結核死亡率(全國)  
 明治三十二年 三三・三  
 三十二年 三三・三  
 三十三年 三三・三  
 三十四年 三三・三  
 三十五年 三三・三  
 三十六年 三三・三  
 三十七年 三三・三  
 三十八年 三三・三  
 三十九年 三三・三  
 四十年 三三・三  
 四十一年 三三・三  
 四十二年 三三・三  
 四十三年 三三・三  
 四十四年 三三・三  
 四十五年 三三・三  
 四十六年 三三・三  
 四十七年 三三・三  
 四十八年 三三・三  
 四十九年 三三・三  
 五十年 三三・三  
 五一年 三三・三  
 五二年 三三・三  
 五三年 三三・三  
 五四年 三三・三  
 五五年 三三・三  
 五六年 三三・三  
 五七年 三三・三  
 五八年 三三・三  
 五九年 三三・三  
 六十年 三三・三  
 六一年 三三・三  
 六二年 三三・三  
 六三年 三三・三  
 六四年 三三・三  
 六五年 三三・三  
 六六年 三三・三  
 六七年 三三・三  
 六八年 三三・三  
 六九年 三三・三  
 七〇年 三三・三  
 七一年 三三・三  
 七二年 三三・三  
 七三年 三三・三  
 七四年 三三・三  
 七五年 三三・三  
 七六年 三三・三  
 七七年 三三・三  
 七八年 三三・三  
 七九年 三三・三  
 八〇年 三三・三  
 八一年 三三・三  
 八二年 三三・三  
 八三年 三三・三  
 八四年 三三・三  
 八五年 三三・三  
 八六年 三三・三  
 八七年 三三・三  
 八八年 三三・三  
 八九年 三三・三  
 九〇年 三三・三  
 九一年 三三・三  
 九二年 三三・三  
 九三年 三三・三  
 九四年 三三・三  
 九五年 三三・三  
 九六年 三三・三  
 九七年 三三・三  
 九八年 三三・三  
 九九年 三三・三  
 一〇〇年 三三・三

年度	全一二年度	全一三年度	全一四年度(新患)	全一五年度(新患)	全一二年度	全一三年度	全一四年度	全一五年度	計
	五、三二九	五、八四八	六、三二一	五、一四八	七四、三七〇	一五、〇四七	四五、六五四	六、八五七	一、四四三、九九九
	九五	一〇五	一一	九二					
	六一五	六九五	八五八	八四〇					
	四二	四六	五七	五五					
	三、三三九	一、四八九	一、七二七	二、〇二〇					
	八〇	三六	四二	四九					
	二五〇	一八九	二二二	二七三					
	三七	二八	三五	四〇					
	八一、五四七	七九、四一〇	八一、五四六	八〇、三三〇					
	九四	九二	九四	九三					

本會の死亡數は前述の如く大正四年度最高を示し其の後低下著しく約三分の一を示し近年

幾分増加せりと雖も大正五年の半數を示すに過ぎず尙本會の内にも東京市内の死亡數は減少の程度特に著しく昭和三年度に於て最高時の約四分の一を示す 我國細民の結核に關しては大正三年三月法律第一號「肺結核療養所の設置及國庫補助に關する件」に依つて人口三十万以上の市に對して更に大正八年三月法律第二六號「結核豫防法」に依つて人口五万以上の市又は公共團體に對して主務大臣は必要に應じ療養所の設置を命ずることを得る規程あり 本會の死亡數著しく減少したるは細民に對し前記法律により療養所設置せられ重症者の收容せられし事一原因をなすと思はる而し近年本會の肺結核患者數の増加及死亡率の増加は果して細民肺結核死亡



率増加したるものか或は結核療養所の收容率の低下の結果か

### 本會取扱東京市内肺結核患者及全死亡者

肺結核患者累年比較 本會は診療開始より昭和二年六月末迄に十一万五千九百餘人の肺結核患者を取扱ひたるは前述の如くなるも其の約三分の一は東京市内取扱患者なり東京市内患者の増減傾向は前掲附表の示す如く大正四年度より減少し最近はその數に比し半數に達せず其の減少は道府縣より著し（尙ほ其他の結核患者も近年減少せり本編は肺結核患者に就いて記するも参考として上表に其他の結核患者を附記したり）

大正元年度 全二年度 全三年度 全四年度 全五年度	外來往診巡回患者		收容患者		合計
	肺結核	其他ノ結核	肺結核	其他ノ結核	
全二年度	一、四三三	三三五	八	一七	一、七六三
全三年度	二、三六七	五八一	四	三二	三、〇七三
全四年度	三、〇五一	七七一	七三	四	三、九三三
全五年度	四、三三三	九六三	一六四	八五	五、五六四
全六年度	三、九四四	九七七	二五九	一七九	五、三三九
全七年度	三、四六九	一、〇五六	二二二	一四六	四、八六八
全八年度	二、七六五	九六三	一四八	一〇五	三、九三〇
全九年度	二、三三八	八五	一三八	一〇六	三、三九七
全一〇年度	二、〇三三	七六三	一四八	八六	三、〇四九
全一一年度	一、八七七	六四三	一四五	八	二、七三三
全一二年度	三、〇七六	三、〇七六	二五三	二二	三、三三九
全一三年度	一、三三八	四三二	一七一	一〇六	二、〇八六
全一四年度	一、五三九	四九三	一八八	一〇一	二、三三一
全一五年度	一、八二七	五〇	一九三	七七	二、六〇七
全一六年度	一、九九七	五九	一七三	一六	二、八五〇
全一七年度	一、七五九	五三八	一三三	七九	二、五〇八
計	四、九七二	一、〇〇〇	一、七七一	一、〇二九	五、八、三二二

變らず多數の經費を消費す一般患者の内何割を占むるかを見るに實人員より延人員の占有割合著しく高く收容の如きは昭和三年度に於て實人員は一般患者の五分なるに反し延人員より見るときは一割七分を占め或は患者費の約二割を肺結核に使用するに非ずやと思はる各年度の割合を示せば次頁の如し

全六年度	全七年度	全八年度	全九年度	全一〇年度	全一一年度	全一二年度	全一三年度	全一四年度	全一五年度	全一六年度	全一七年度	計
三、九四四	三、四六九	二、七六五	二、三三八	二、〇三三	一、八七七	三、〇七六	一、三三八	一、五三九	一、八二七	一、九九七	一、七五九	四、九七二
九七七	一、〇五六	九六三	八五	七六三	六四三	三、〇七六	四三二	四九三	五〇	五九	五三八	一、〇〇〇
四、九二二	四、五七七	三、七七七	三、〇七六	二、八二五	二、五一九	三、〇七六	一、七四九	二、〇三三	二、三三七	二、五〇六	二、一九七	一、〇二九
二五九	二二二	一四八	一三八	一四八	一四五	二五三	一七一	一八八	一九三	一七三	一三三	一、七七一
一七九	一四六	一〇五	一〇六	八六	八	二二	一〇六	一〇一	七七	一六	七九	一、〇二九
四三六	三六八	三三三	二四四	二四四	二三三	二二二	二二七	二八九	二七〇	二八八	二二二	一、〇二九
五、三三九	四、八六八	三、九三〇	三、三九七	三、〇四九	二、七三三	三、三三九	二、〇八六	二、三三一	二、六〇七	二、八五〇	二、五〇八	五、八、三二二

結核患者治療病床を有する診療機關(東京府) 東京市療養所(府下野方町)八〇〇 恩賜濟生會病院(芝區赤羽町)三七 牛込恩賜濟生會病院(牛込區戸山町)二三 慈惠會醫院(芝區愛宕町)一〇 日本赤十字社病院(府下澁谷町)一五 救世軍療養所(府下和田堀)







肺結核患者の轉歸 肺結核患者の轉歸を全治、輕快、死亡、收容其他(醫務)に區分し外來患者を見るに全治極めて少く轉歸者總數の四割は輕快にして尙ほ四割は其他の占むるところなり死亡者は轉歸者の一割に過ぎず收容患者は前者と全く趣を異にし六割―七割の死亡を示し全治の如きは外來患者より尙少く一%―二%に過ぎず本會は本會病院及牛込病院に結核病床六〇を有し患者の入院に務めつつあるも結核病床常に満員にして入院に至るまでには相當の時日を要し従つて入院者中には重症者多く斯く高き死亡率を示す

轉歸者總數を百とせし割合

昭和二年度	全治				輕快	死亡	收容	其他
	外來患者	收容患者	外來患者	收容患者				
昭和二年度	三%	四二%	一〇%	九%	三六%			
昭和三年度	二%	二六%	七〇%	一%	二%			

肺結核患者の一人當治療日數 肺結核患者は取扱患者總數に比較するに實人員に於て總患者の五%―六%(昭和三年度)なるも延人員に對する同率を見るに外來九%收容一七%なるは前述の如し之れ肺結核患者の一人當治療日數は他疾病者に比して著しく長きに依る肺結核患者一ヶ年間の實人員を以て一ヶ年間の總延人員を除し一人當平均治療日數を見るに左の如し

肺結核患者一人當治療日數

外來及收容平均	大正五年度		昭和二年度		昭和三年度		昭和三年度一般患者	
	外來	收容	外來	收容	外來	收容	外來	收容
外來	五九	五八	六二	六〇	六六	六三	四八	四七
收容	七〇	八六	九五	九三	九三	九三	三九	三九

右の如く肺結核患者は著しく長く而も最近増加しつつあり殊に經費を要する收容は外來に比し長く而も其の轉歸者の大部分は死亡であり之に依つて見るも多大の患者費が肺結核死亡者によつて消費されつつある憾あり

肺結核死亡者累年比較 本會東京市内に於て昭和四年六月末迄取扱總死亡者六、八五七人にして之に其他の結核を加ふる時は八、一八二人なり肺結核死亡者數を年度別に見るに大正三年度より七年度の間最も多く漸減して現今にては其の四分の一に過ぎず其他の結核死亡を見るに肺結核死亡數と同様減少せるも其の程度著し尙其他の結核死亡率は常に肺結核より低く殊に收容は甚しく低し東京市開始以降(自大正元年度)死亡率外來は(肺結核一二%にして收容は(肺結核六〇%なり其の實數を掲ぐれば左の如し至昭和三年度)死亡率外來は(肺結核八%にして收容は(肺結核二二%なり其の實數を掲ぐれば左の如し

東京市内取扱全結核死亡者

外來往診巡回死亡者		收容死亡者		合計
肺結核	其他ノ結核	肺結核	其他ノ結核	
計	計	計	計	

昭和三年度肺結核死亡者二一六人にして此の内外來一三八人收容七八人なり之を轉歸者數に比較するときは







全 三年度	患者		死亡者	
	男	女	男	女
一歳未満	〇	〇	一	一
一—五	二	一	二	六
五—十	三	一	四	一
十—一五	四	七	五	二〇
一五—二〇	一五	一六	二〇	二七
二〇—二五	三二	三〇	二七	一五
二五—三〇	一七	二〇	一五	八
三〇—三五	一四	一二	一三	五
三五—四〇	一〇	六	一一	三
四〇—四五	三	〇	〇	〇
四五—五〇	〇	〇	〇	〇
五〇—五五	〇	〇	〇	〇
五五—六〇	〇	〇	〇	〇
六〇—六五	〇	〇	〇	〇
六五—七〇	〇	〇	〇	〇
七〇—七五	〇	〇	〇	〇
七五—八〇	〇	〇	〇	〇
八〇—八五	〇	〇	〇	〇
八五—九〇	〇	〇	〇	〇
九〇—九五	〇	〇	〇	〇
九五—一〇〇	〇	〇	〇	〇

肺結核死亡者に就て見るに患者の最も多かりし二〇才—三〇才の階級最も多く次は患者にありては其の上の年齢階級なりしも死亡者は之と反對に一五才—二〇才に多く三〇才—四〇才之に次ぐ。此等の一五才—四〇才の間を通算するに男七割五分、女七割三分を示し患者の大部分年産年齢階級に屬せしが死亡者も大部分此の年齢階級なり結核は亡國病なりとの感亦深し

各年齢階級に於ける死亡率 肺結核患者百人に對して全死亡者數を見るに近年幾分低下の傾向を示し昭和三年度九%性別に見るに男八%女九%なることは前述の如くなるも之を年齢別に見るときは一〇—二〇歳の階級高く次に注意すべきは一〇歳未満の階級なるも之は患者數少なく僅かの死亡數の増減によりて其率の變動甚だしく其の年により著しく高し患者數及死亡數の最も多き二〇—三〇歳の階級は一〇%にして三〇才以上は漸次低下を示す各年齢階級の率を示せば左の如し

各年齢階級百に對する死亡者割合

總數 一歳未満 一—五 五—十 一〇—一五 一五—二〇 二〇—二五 二五—三〇 三〇—三五 三五—四〇 四〇—四五 四五—五〇 五〇—五五 五五—六〇 六〇—六五 六五—七〇 七〇—七五 七五—八〇 八〇—八五 八五—九〇 九〇—九五 九五—一〇〇

昭和二年度	男	女
一歳未満	一	一
一—五	一	一
五—十	一	一
十—一五	一	一
一五—二〇	一	一
二〇—二五	一	一
二五—三〇	一	一
三〇—三五	一	一
三五—四〇	一	一
四〇—四五	一	一
四五—五〇	一	一
五〇—五五	一	一
五五—六〇	一	一
六〇—六五	一	一
六五—七〇	一	一
七〇—七五	一	一
七五—八〇	一	一
八〇—八五	一	一
八五—九〇	一	一
九〇—九五	一	一
九五—一〇〇	一	一

全 三年度

全 三年度	男		女	
	患者	死亡者	患者	死亡者
一歳未満	八	七	九	七
一—五	二	三	一	三
五—十	一	一	一	一
十—一五	一	一	一	一
一五—二〇	一	一	一	一
二〇—二五	一	一	一	一
二五—三〇	一	一	一	一
三〇—三五	一	一	一	一
三五—四〇	一	一	一	一
四〇—四五	一	一	一	一
四五—五〇	一	一	一	一
五〇—五五	一	一	一	一
五五—六〇	一	一	一	一
六〇—六五	一	一	一	一
六五—七〇	一	一	一	一
七〇—七五	一	一	一	一
七五—八〇	一	一	一	一
八〇—八五	一	一	一	一
八五—九〇	一	一	一	一
九〇—九五	一	一	一	一
九五—一〇〇	一	一	一	一

右は肺結核患者に對する死亡率にして此の死亡者を人口に比較するときは肺結核が二〇才前後の人口に如何に影響するか明かなるも本會患者の對照とする細民人口明かならず參考として左表を掲げん

日本に於ける當該年齢級人口一萬に對する結核死亡（昭和二年）

年齢	男	女
一歳未満	一五	一五
一—五	二〇	二〇
五—十	二五	二五
一〇—一五	三〇	三〇
一五—二〇	三六	三六
二〇—二五	四一	四一
二五—三〇	四七	四七
三〇—三五	五三	五三
三五—四〇	六〇	六〇
四〇—四五	六六	六六
四五—五〇	七二	七二
五〇—五五	七八	七八
五五—六〇	八四	八四
六〇—六五	九〇	九〇
六五—七〇	九六	九六
七〇—七五	一〇二	一〇二
七五—八〇	一〇八	一〇八
八〇—八五	一一四	一一四
八五—九〇	一二〇	一二〇
九〇—九五	一二六	一二六
九五—一〇〇	一三二	一三二

肺結核患者及死亡者職業別 患者及死亡者を職業大分類によつて見るに工業者最も多し（本會取扱患者は一般患者に於ても工業者最も多數なり）次は無職業、其他の有業者、公務及自由業なり職業分類中分類に依て見る時は工業の内にて最も患者多きは「被服身の廻り品製造業」にして之に含まるべき主なる業名は和洋服裁縫、帽子、シャツ、袋物、傘、履物、靴製造及其關係者なり次は「土木建築業」之に含まるべきは大工、左官、屋根葺、土方、ペンキ塗職及其關係者なり實數及比例を示せば次の如し

職業別實數及比例

職業	實數	比例
農業	七	六
水産業	五	一
礦業	一	一
工業	四三	四
商業	四五	三
交通業	三六	二
公務及 自由業	二〇	一
其他ノ 有業者	一七	一
家事 使用人	一六	一
無職業	一一	一
計	一九	一



統計表

昭和三年度

比例數		實數		比例數		實數	
死亡者		患者		死亡者		患者	
女	男	女	男	女	男	女	男
—	—	—	—	—	—	八	八
		○				—	
		○	○			—	—
三〇	三三	二九	三三	三〇	三六	三〇	四四
二	一五	八	二	二	一七	八	一七〇
六	三	三	三	五	四	二七	三六
一〇	五	三	二	一〇	六	一三	一五
一〇	二〇	一五	一九	一〇	三	一六	三三
二	三	四	二	二	三	九	六
三〇	一九	三八	三〇	三〇	二	二九	二五
一〇〇	一〇〇	一〇〇	一〇〇	九	一三	一〇八	一三六

昭和二年度

比例數		實數		比例數		實數	
死亡者		患者		死亡者		患者	
女	男	女	男	女	男	女	男
—		—	—	—		三	八
			○				二
三三	二七	三五	三七	三七	四〇	四二	四六
六	一五	八	三	九	三	九〇	一七
六	九	三	三	九	一三	四〇	五
八	九	三	二	二	一四	一五	一五
二	三	四	七	二	二〇	一五	三〇
二	三	三	一	三	五	四〇	一八
三	二四	三	八	四	三六	三六	二五
一〇〇	一〇〇	一〇〇	一〇〇	四	一五	一七一	一三七〇







本會取扱(全國)肺結核死亡者數(創立以來)

道府縣	道	府	縣
大正元年	正	全	元
大正二年	正	全	二
大正三年	正	全	三
大正四年	正	全	四
大正五年	正	全	五
大正六年	正	全	六
大正七年	正	全	七
大正八年	正	全	八
大正九年	正	全	九
大正十年	正	全	十
大正十一年	正	全	十一
大正十二年	正	全	十二
大正十三年	正	全	十三
大正十四年	正	全	十四
大正十五年	正	全	十五
昭和元年	正	全	十六
計	正	全	計

道府縣	道	府	縣
大正元年	正	全	元
大正二年	正	全	二
大正三年	正	全	三
大正四年	正	全	四
大正五年	正	全	五
大正六年	正	全	六
大正七年	正	全	七
大正八年	正	全	八
大正九年	正	全	九
大正十年	正	全	十
大正十一年	正	全	十一
大正十二年	正	全	十二
大正十三年	正	全	十三
大正十四年	正	全	十四
大正十五年	正	全	十五
昭和元年	正	全	十六
計	正	全	計

自大正十一年度 兵庫、三重、宮城、青森、島根、高知の各縣は死亡者報告を欠く



昭和二年度本會取扱東京市内肺結核患者及全死亡者

一、肺結核外來(往診巡回)患者診療機關別調

診療所	計		患者數	全治	轉輕快	死亡	歸收容	其他	計	年度末治療中	治療日數
	女	男									
濟生會病院	四	三	七	二	一	一	一	一	二	一	一八、三四九
濟生會麴町分院	九	五	一四	七	三	二	二	一	一五	一〇、三九五	
濟生會深川診療所	三	八	一一	一	一	一	一	一	五	二〇、六八五	
濟生會本所診療所	一〇	一〇	二〇	一	一	一	一	一	五	三九、〇三四	
計	一〇	一〇	二〇	一	一	一	一	一	一〇	一〇、三九五	一八、三四九

診療所	計		患者數	全治	轉輕快	死亡	歸收容	其他	計	年度末治療中	治療日數
	女	男									
濟生會淺草診療所	六	〇	六	一	一	一	一	一	五	一	八、二七三
濟生會下谷診療所	三	三	六	一	一	一	一	一	五	一	五、五五九
濟生會小石川診療所	二	七	九	一	一	一	一	一	五	一	一三、八三一
濟生會四谷診療所	八	二	一〇	一	一	一	一	一	五	一	一〇、三八〇
濟生會深川診療所 善隣館出張所	一	一	二	一	一	一	一	一	二	一	一〇、一九五
計	二〇	一〇	三〇	一	一	一	一	一	一〇	一	二〇、一九五























昭和三年度本會取扱東京市内肺結核患者及全死亡者

一、肺結核外來(往診巡回)患者診療機關別調

診療機關	計		前年度越新患者	患者數	轉歸別				治療中	治療日數
	女	男			全治	輕快	死亡	收容其他		
財團法 濟生會病院	112	226	213	407	3	36	2	17	92	25,335
財團法 牛込 濟生會病院	223	138	203	304	9	23	8	15	85	19,927
財團法 濟生會深川診療所	8	125	85	137	1	7	9	2	10	4,333
財團法 濟生會本所診療所	238	210	210	448	1	14	1	11	33	11,263
計	582	679	711	1,382	14	76	29	45	200	55,963

診療機關	計		前年度越新患者	患者數	轉歸別				治療中	治療日數
	女	男			全治	輕快	死亡	收容其他		
財團法 濟生會淺草診療所	110	155	100	265	1	4	3	1	10	4,558
財團法 濟生會下谷診療所	44	101	44	145	1	7	1	1	10	1,583
財團法 濟生會小石川診療所	24	80	24	104	1	4	2	1	11	1,030
財團法 濟生會四谷診療所	8	24	8	32	1	4	4	3	5	1,941
計	184	331	184	546	5	26	10	6	36	11,173







二、肺結核外來患者年齡及職業別（東京市內昭和三年度）

業	工										業			計				
	其	學	製	土	被	飲	木	皮	紙	織	機	金	窯		土	探	漁	林
業	業	業	業	業	業	業	業	業	業	業	業	業	業	業	業	業	業	業
滿未歲一																		
五—一																		
一〇—五																		
一五—一〇																		
二〇—一五																		
三〇—二〇																		
四〇—三〇																		
五〇—四〇																		
六〇—五〇																		
上以六〇																		
計	六	四	三	五	九	七	二	四	〇	一	三	四	三	四	三	一	一	七
滿未歲一																		
五—一																		
一〇—五																		
一五—一〇																		
二〇—一五																		
三〇—二〇																		
四〇—三〇																		
五〇—四〇																		
六〇—五〇																		
上以六〇																		
計	七	八	六	三	五	八	二	二	六	四	〇	三	一	一	一	一	一	八
計合	一三	一二	一〇	一二	一六	一五	四	六	六	四	三	四	四	二	二	二	二	一五

計	業										業			計							
	無	家	其	其	藝	記	法	醫	教	宗	官	陸	運		通	其	旅	物	金	媒	物
業	者	人	者	業	家	者	業	業	業	業	備	人	業	業	業	等	業	業	業	業	
無																					
入																					
ニ																					
職																					
依																					
ル																					
業者																					
計	二	二	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一
二																					
二																					
三																					
三																					
四																					
四																					
五																					
五																					
六																					
六																					
七																					
七																					
八																					
八																					
九																					
九																					
一〇																					
一〇																					
一一																					
一一																					
一二																					
一二																					
一三																					
一三																					
一四																					
一四																					
一五																					
一五																					
一六																					
一六																					
一七																					
一七																					
一八																					
一八																					
一九																					
一九																					
二〇																					
二〇																					
二一																					
二一																					
二二																					
二二																					
二三																					
二三																					
二四																					
二四																					
二五																					
二五																					
二六																					
二六																					
二七																					
二七																					
二八																					
二八																					
二九																					
二九																					
三〇																					
三〇																					
三一																					
三一																					
三二																					
三二																					
三三																					
三三																					
三四																					
三四																					
三五																					
三五																					
三六																					
三六																					
三七																					
三七																					
三八																					
三八																					
三九																					
三九																					
四〇																					
四〇																					
四一																					
四一																					
四二																					
四二																					
四三																					
四三																					
四四																					
四四						</															



















道府縣	昭和十五年年度	昭和二年	昭和三年	計	同三年度 延人員
北海道	二,一〇五	八,四三三	八,三三〇	三二,〇〇	一八,三六
東京市	八,〇九〇	八,四三三	八,三三〇	八,〇九〇	一八,三六
東京都	一,三〇七	一,六〇三	二,四七〇	五,三八〇	五,四〇四
京都市	一,五八六	一,六〇三	二,四七〇	五,六六〇	六,四〇六
大阪市	二,八二〇	二,八二〇	二,八二〇	六,八八〇	三,九
神奈川	四,五三〇	三,六八〇	一,五三〇	九,七四〇	二,〇〇〇
兵庫	一,〇〇〇	一,〇〇〇	一,〇〇〇	三,〇〇〇	一,〇〇〇
新潟	五,六七五	五,三〇〇	四,九七〇	一五,九四五	一,一〇六
群馬	七,〇〇〇	五,〇〇〇	五,〇〇〇	一七,〇〇〇	一,一〇六
茨城	二,七〇〇	二,〇〇〇	二,〇〇〇	六,七〇〇	二,〇〇〇
三重	二,四七五	三,五九〇	三,一四〇	九,二〇五	六,九三三
愛知	二,四七五	三,五九〇	三,一四〇	九,二〇五	六,九三三
山梨	一,〇〇〇	一,〇〇〇	一,〇〇〇	三,〇〇〇	一,〇〇〇
滋賀	一,〇〇〇	一,〇〇〇	一,〇〇〇	三,〇〇〇	一,〇〇〇
長野	一,〇〇〇	一,〇〇〇	一,〇〇〇	三,〇〇〇	一,〇〇〇
宮城	一,〇〇〇	一,〇〇〇	一,〇〇〇	三,〇〇〇	一,〇〇〇
福島	一,〇〇〇	一,〇〇〇	一,〇〇〇	三,〇〇〇	一,〇〇〇
合計	六九,〇〇〇	一,一四一,〇〇〇	一,一四一,〇〇〇	一〇,〇〇〇,〇〇〇	二,三三六

道府縣	昭和十五年年度	昭和二年	昭和三年	計	同三年度 延人員
山形	一,四六七	一,四六七	一,四六七	四,四〇一	一,四六七
福島	一,四六七	一,四六七	一,四六七	四,四〇一	一,四六七
石川	一,四六七	一,四六七	一,四六七	四,四〇一	一,四六七
鳥取	一,四六七	一,四六七	一,四六七	四,四〇一	一,四六七
島根	一,四六七	一,四六七	一,四六七	四,四〇一	一,四六七
岡山	一,四六七	一,四六七	一,四六七	四,四〇一	一,四六七
広島	一,四六七	一,四六七	一,四六七	四,四〇一	一,四六七
和歌山	一,四六七	一,四六七	一,四六七	四,四〇一	一,四六七
徳島	一,四六七	一,四六七	一,四六七	四,四〇一	一,四六七
香川	一,四六七	一,四六七	一,四六七	四,四〇一	一,四六七
高知	一,四六七	一,四六七	一,四六七	四,四〇一	一,四六七
福岡	一,四六七	一,四六七	一,四六七	四,四〇一	一,四六七
大分	一,四六七	一,四六七	一,四六七	四,四〇一	一,四六七
熊本	一,四六七	一,四六七	一,四六七	四,四〇一	一,四六七
鹿児島	一,四六七	一,四六七	一,四六七	四,四〇一	一,四六七
沖縄	一,四六七	一,四六七	一,四六七	四,四〇一	一,四六七
合計	一四,六六七	一四,六六七	一四,六六七	四四,〇〇一	一四,六六七



本會東京市内結核病床開始以來(自大正二年二月至昭和四年六月)收容患者

五二

年 度 別	越 患 者	新 患 者	計	歸 別						治 療 中	延 人 員
				全 治	轉	輕 快	死 亡	其 他	計		
大正元年	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
大正二年	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
大正三年	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
大正四年	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
大正五年	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
大正六年	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
大正七年	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
大正八年	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
大正九年	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
大正十年	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
大正十一年	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
大正十二年	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
大正十三年	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
大正十四年	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
大正十五年	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
大正十六年	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
大正十七年	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
大正十八年	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
大正十九年	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
大正二十年	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
大正二十一年	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
大正二十二年	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
大正二十三年	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
大正二十四年	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
大正二十五年	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
大正二十六年	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
大正二十七年	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
大正二十八年	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
大正二十九年	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
大正三十年	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
大正三十一年	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
大正三十二年	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
大正三十三年	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
大正三十四年	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
大正三十五年	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
大正三十六年	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
大正三十七年	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
大正三十八年	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
大正三十九年	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
大正四十年	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
大正四十一年	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
大正四十二年	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
大正四十三年	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
大正四十四年	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
大正四十五年	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
大正四十六年	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
大正四十七年	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
大正四十八年	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
大正四十九年	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
大正五十年	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
大正五十一年	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
大正五十二年	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
大正五十三年	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
大正五十四年	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
大正五十五年	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
大正五十六年	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
大正五十七年	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
大正五十八年	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
大正五十九年	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
大正六十年	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
大正六十一年	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
大正六十二年	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
大正六十三年	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
大正六十四年	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
大正六十五年	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
大正六十六年	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
大正六十七年	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
大正六十八年	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
大正六十九年	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
大正七十年	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
大正七十一年	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
大正七十二年	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
大正七十三年	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
大正七十四年	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
大正七十五年	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
大正七十六年	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
大正七十七年	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
大正七十八年	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
大正七十九年	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
大正八十年	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
大正八十一年	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
大正八十二年	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
大正八十三年	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
大正八十四年	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
大正八十五年	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
大正八十六年	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
大正八十七年	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
大正八十八年	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
大正八十九年	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
大正九十年	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
大正九十一年	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
大正九十二年	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
大正九十三年	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
大正九十四年	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
大正九十五年	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
大正九十六年	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
大正九十七年	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
大正九十八年	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
大正九十九年	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
大正一百年	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—

東京市内結核患者收容病床數は本會病院三十七床、牛込病院二十三床計六十床なり

合 計	昭 和 十 五 年		昭 和 二 十 年		大 正 十 四 年	
	女	男	女	男	女	男
—	—	—	—	—	—	—
11,110	5,702	5,408	7,573	7,321	8,302	8,202
11,110	7,023	4,087	1,231	1,517	1,046	2,466
—	—	—	—	—	—	—
678	4,539	2,233	2,333	2,745	1,640	4,000
1,473	3,374	767	2,604	5,833	5,750	1,300
300	3,588	3,700	1,455	1,055	—	—
2,687	5,691	777	1,688	2,090	1,497	1,977
—	2,355	2,355	1,835	1,494	1,349	—
2,578,668	1,800,000	745,577	1,878,333	1,221,999	643,000	1,758,233

五三



附錄 結核患者收容機關 昭和二年三月一日現在 (内務省衛生局調)

種別	個數			現在收容結核患者數	結核患者收容定員
	官立	公立	私立		
結核療養所(結核病院ヲ含ム)	1	14	33	1,944	3,894
結核病棟ヲ有スルモノ	2	8	55	1,764	1,343
結核病床ヲ有スルモノ	4	2	3	749	1,080
計	7	24	91	4,467	6,317

×印ハ恩賜財團濟生會ノ經營ニ係ルモノヲ再掲

公立結核療養所(十五ヶ所)患者數 昭和二年中 (内務省衛生局調)

收容定員	實人	患者數	轉歸				計	年末現在
			全治	略治	輕快	不變		
函館市立柏野療養所	60	3	9	1	3	1	9	28
東京市療養所	800	36	5	14	11	1	31	792
京都市立宇多野療養所	100	1,173	1	5	2	1	9	1,011
大阪市立刀根山療養所	400	1,173	1	5	2	1	9	1,011
横濱市療養院	100	1,173	1	5	2	1	9	1,011
神戸市屯田療養所	100	1,173	1	5	2	1	9	1,011
計	1,000	1,173	4	20	13	4	41	84

公立結核療養所(十五ヶ所)死亡者年齡別 (内務省衛生局調)

昭和二年年中	性別										計	
	男					女						
開所以來昭和二年末迄	1-10歲	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1
	11-15歲	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1
	16-20歲	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1
	21-25歲	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1
	26-30歲	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1
	31-35歲	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1
	36-40歲	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1
	41-45歲	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1
	46-50歲	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1
	51-55歲	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1
	56歲以上	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1
計	11	11	11	11	11	11	11	11	11	11	11	



















各國に於ける結核死亡者及病床數

國名及年次	結核死亡	内肺結核死亡	人口壹萬に對する死亡	人口壹萬に對する結核死亡	人口	結核病床數	結核病床數對人口
獨逸	九三、〇三〇	七九、九九七	一八〇	二二二	三、八六、〇〇〇	五、七二	〇・一五
佛蘭西	六八、八四二	五九、四六五	一七二	二二九	四、七四、八五一	二、〇七〇	〇・四三
伊太利	五三、八八九	三七、八三四	一四二	二二七	三、八五、五五七	一、五九七	〇・四一
英蘭及 ウエール ス	四六、六二五	三七、九三六	一〇九	一八六	三、八六、六九九	三、一〇一	〇・八〇
北米合衆國	九〇、四二二	六九、一〇四	八三	七三	二八、四九、五〇〇	三、七三三	〇・一三
加奈陀	九二、六二六	七、九三〇	八・一	六・九	九、三六、〇〇〇	九、七三九	一・〇五
日本	一九、六三三	八五、八八六	一九・三	二二・八	三、二二、二〇〇	六、二二六	〇・一九

昭和五年六月

東京市芝區赤羽町一番地

恩賜 財團 濟生會

電話高輪(五四)番

(印刷者 南金太郎)



終